



新田サドベリースクール

SHINDEN SUDBURY SCHOOL

新田サドベリースクールニュースレター

みなさま、こんにちは！新田サドベリースクールでは、充実した夏休みをすごしてスクールに戻ってきた子どもたちが、元気いっぱいそれぞれの活動に取り組んでいます。

◎ サドベリースクール ≡ 不登校児受け入れ施設!? ◎

「サドベリーって、不登校の子が行く場所なんですよね？」「一日中、森の中で過ごすんだってね。」「サドベリーって、大学まであるって聞いたけど…？」などなど、サドベリースクールに興味があるという方々から声をかけていただきます。間違っているとは言えないけれど、まだまだ私たちの活動を知っていただく努力が必要だなあと感じる瞬間です。では、サドベリースクールに来るのはどんな子どもたちなのでしょう？

●より主体性をもって学びたい・過ごしたい子ども

サドベリースクールには、決められた時間割やカリキュラムがありません。ランチタイムすら自分で決められる自由な環境の中で、自分がその時期に取り組みたいことに、取り組みたい仲間と、好きなだけの時間をかけて取り組むことができます。

●大人を含め、異なる年齢の人々と積極的に交流したい子ども

サドベリースクールでは、38歳のスタッフも6歳の生徒も、同じ重みの発言権を持つ存在として扱われます。子どもの言うことだから大したことではない、大人の言うことだから受け入れなくてはならない、といった価値観をできる限り取り除き、すべてのメンバーが対等な存在として言いたいことを言い合いつつ、互いの意見、ひいては存在そのものを尊重する態度を学ぶのがサドベリースクールです。

●大人数で過ごす環境から離れて、少し自分を見つめ直す時間を持ちたくなった子ども

公教育の場では、より良い点数を取ることに、みんなと同じように行動できること、決められたことをきちんとこなすこと、などが大事だとされる傾向がありますね。でも、それ以外にも人生で大事なことはたくさんあるんじゃないか？ぼんやり未来を夢見ること、ひたすら好きなお人形遊びに没頭すること、サッカーの新しい技を習得すること…サドベリースクールではどんな活動もいい・悪いと評価されることがないので、自分自身とゆっくり向き合いながら過ごすことができます。

いかがでしょうか？新田サドベリースクールの生徒は、校舎で一日過ごすこともできるし、近くの川や山や森にふらりと散歩に行くこともできるし、時には鳥取まで買い物に行くこともできます。今日という一日をどう過ごすかについての選択権は、すべて本人にあります。その一方で、自分がしたいことをするために必要な支援を得たり、一緒に活動したい仲間を集めたりといった面倒なことも自分で引き受けなくてははいけません。百聞は一見に如かず、興味を持ってくださった方はいつでも見学にいらしてくださいね。

【新田サドベリースクール 見学随時受付中!!】



スクールの見学を、随時受け付けています。ぜひお気軽にお問合せください！

学校見学：ひとり/1世帯 1日3,000円（智頭町民の方は無料）

体験入学：ひとり1日2,000円

お申込方法：お電話かメールにて直接スクールへご希望の日程をお伝えください。

これからの教育について考える、おすすめ書籍

--- スタッフが最近読んだ本の中から、皆さんの興味を引きそうなものをご紹介します ---

『一流の育て方』 ムーギー・キム/ミセス・パンプキン著 ダイアモンド社 1,600円

著者であるミセス・パンプキンは4人の子育てをほぼ終えたお母さん。4人の子どもたちは、それぞれ ○ニューヨーク州弁護士 ○ロンドン勤務の公認会計士 ○カナダの大学教員 ○香港の金融プロフェッショナル として、グローバルに大活躍しています。共著者のムーギー・キム氏はそのミセス・パンプキンのご長男。その2人が、自分たちの考えを押し付けるのではなく、200人を超える現役東大・京大・早慶大学生や、グローバルに突出して活躍している若者たちにインタビューし、回答をまとめたのがこの本です。

すば抜けてできる子は、どのような家庭環境で育ったのか？保護者はどんなことに気を付けて子どもと関わっていたのか？決してエリートを育てるための指南書ではなく、「どんな環境でも主体的に幸福な人生を切り開ける子ども」を育てるための関わりには、どんな方法があるのか？を紹介している本です。



『学力の経済学』 中室牧子 ディスカバー 1,600円

教育経済学者の著者には、子どももいないし子育て経験もありません。しかし、経済学者として様々な角度から実際の数値データに基づいて教育について研究を進めるうちに、日本の教育政策に疑問を感じるようになりました。

- テレビやゲームは子どもに悪影響を及ぼすのか？
- 「頭がいいね」と「よく頑張ったね」では、どちらが効果的な声掛けか？
- 少人数は、積極的に導入すべきか？

など、多くの親が明確に答えを出すのが難しいと感じている問題について、実際のデータとち密な分析をもって解説しています。子育て・教育に関する思い込みや一般常識と言われている価値観を、見直すいい機会になる一冊です。



最近の新田サドベリー エピソード

ある日の朝の会、「社会科見学に行きたい！」と、12歳の男子が発言。昨年全員で訪れた、三菱自動車水島工場見学のようなものを、今年もしたいとのこと。さっそく10歳~12歳の男子生徒達が、勉強部屋に集まって企画会議を始めました。様々な社会科見学受け入れ施設を掲載したガイドブックを囲みながら、ああでもないこうでもない話が進むうち、「USJに行きたいなあ。」と一人が発言。「大阪は遠すぎるだろ？」「許されないよなあ？」と会話が進むうち、「なあ、USJに行きたい！」とスタッフに声がかかりました。

スタッフは、活動計画書にあらためて希望する活動内容を記入して提出するように依頼。その日から2、3日をかけて、男子生徒たちはインターネットを使って交通手段を調べ、チケットの入手方法を決め、旅のしおりを作り、予算を決め、スクールに支援してほしいことを列記して計画書を完成させました。スタッフからは『USJから戻った後、誰にも様子がわかるようにアルバムを作り、作文を書くこと。』を条件として計画実行にOKが出され、スクールの他の全メンバーからも男子生徒がUSJに行くのは構わない、との承認が得られましたが、あとは参加者自身で家に帰って保護者を説得しなくてははいけません。各家庭でどのような話し合いが行われたのかはわかりませんが、すべての参加者が保護者の承認サインを持って、「やりきったぜ！」という明るい顔でスタッフに書類を提出してくれました。彼らが日々の活動の中で身に着けた企画力、集中力、交渉力のすべてが、その笑顔に表れていたように思います。彼らが実際にUSJへ行くのは10月。どんな報告を聞かせてくれるのか、楽しみです。